学校法人 兵庫医科大学 広報誌

兵医広報

2019
AUTUMN
vol.248

聴く / 伝える / 協力する

特集 兵医で身につくコミュニケーション力

HYO-I DE MINITUKU COMMUNICATION SKILL

聴く / 伝える / 協力する

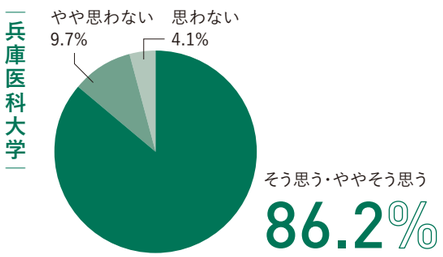
兵医で身につくコミュニケーション力

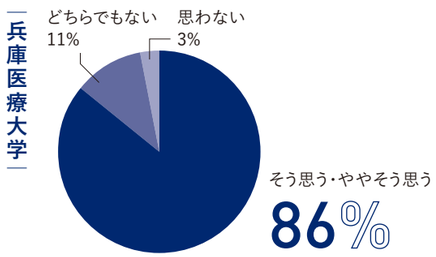
HYO-I DE MINITUKU COMMUNICATION SKILL

言葉や文字などの「言語」、表情や身振りなどの「非言語」を用い、思ったことや感じたことを相手に投げかけたり、受け取ったりすることによってお互いを理解し合う──。こうした「コミュニケーション力」は、医療従事者が患者さんを支えていく上で欠かすことができない能力だと言われています。そんな中、下記グラフのとおり実に8割以上もの卒業生が「在学中にコミュニケーション力が身についた」と、自信を持って医療の世界へと羽ばたいている兵医。本特集ではその秘密に迫ります。

チーム医療演習の様子（2019年8月30日）

Q 在学中にチーム医療に役立つ、コミュニケーション力などのスキルは身についた？





※兵庫医科大学、兵庫医療大学を2019年3月に卒業した学生に実施した「卒業時調査」の集計結果

コミュニケーションがなぜ臨床現場に必要なのか

近年、医療技術は目覚ましい高度化や専門化が進んでいます。それに伴って医療現場では、それぞれの分野で高い専門知識を有している専門職が、チームとして連携して治療にあたることで患者さん中心の医療を提供する「チーム医療」が主流になっています。より安心・安全な医療を提供するために、チーム医療の現場では自らが高度な医療技術や知識を発揮するだけでなく、各専門職がお互いの独自性を認め合い、尊重し合う必要があるため、そこでは高いコミュニケーション力が求められているのです。

こうした臨床現場の実情を踏まえ、兵庫医科大学では「チーム医療に適応できるコミュニケーション能力の養成」を、兵庫医療大学では「優れたコミュニケーション能力を基盤とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成」をそれぞれ教育目標として掲げ、さまざまなカリキュラムを通じて学生たちの「聴く」「伝える」「協力する」といったコミュニケーション力の向上に取り組んでいるのです。

コミュニケーション力 SKILL を育むカリキュラム curriculum

兵庫医科大学 医学部

／HYOGO COLLEGE OF MEDICINE／

授業名

早期臨床体験実習Ⅰ

医学部に入学したばかりの学生が実際に医療現場を見学し、看護や介護を体験することにより、医学生としての自覚を持つための実習です。
幅広い視野とコミュニケーション力を身につけます。

授業名

医療コミュニケーション（ロールプレイ実習）と生命倫理

グループでロールプレイを行う中で、患者さんや医療専門職者とのコミュニケーションの特殊性と重要性、チームの中で働く際に必要な協調性を身につけていきます。また、生命倫理の諸問題についても学んでいきます。

授業名

人文・社会系選択科目

関西学院大学で人文科学や社会科学などの多彩なリベラルアーツ科目を自主的に履修し、教養を身につけていきます。関西学院大学の学生の皆さんとの交流は、人間的な成長につながりコミュニケーション力を養う良いきっかけとなります。

良医への第一歩として幅広い教養を習得

第１年次

授業名

早期臨床体験実習Ⅱ

施設協働実習、エスコート実習、診療所実習の3つの内容で構成された臨床医学実習です。医療と社会との関係を把握し、医療コミュニケーション、危機管理、チーム医療など幅広い角度から医療について考えます。

人間性豊かな良医になるためにチーム学習と実習を体験

第２年次

授業名

チーム医療演習

ー患者の痛みのわかる医療者養成ー

兵庫医療大学の学生との合同演習。医療職種間の相互理解を深め「チーム医療」を駆使して患者さんの問題を解決する能力を身につけます。

授業名

在宅ケア（訪問看護）実習

医療職種間の相互理解とチームワークの重要性を理解

第３年次

授業名

医療入門

臨床実習に臨む前に、医療専門職者としての基盤構築をめざします。特別講義などを交えて医療と社会の関係性を理解したり、医療コミュニケーションの重要性を学んだりします。また、キャリア形成やアンガーマネジメントなど、臨床現場に出た際に必要となる内容もここで学びます。

身につけた教養・コミュニケーション力で4年次後半から臨床現場に

第４年次

授業名

臨床実習（学内・学外）

すでに学んだ医学の知識をより確かなものにするために、患者さんと対面し、診察や実際の治療、カルテの書き方、コミュニケーションの取り方などについて実習をとおして学びます。診療チームの一員として臨床医に必要な態度、技能、知識の習得をめざします。

チーム医療の一員として臨床医に必要なスキルを習得

第５年次

授業名

自由選択実習

学内の希望診療科はもちろんのこと、全国の一般病院、他の大学病院で実習することが可能です。患者さんが訴える症状や症候から疾患を絞り込む臨床推論力を鍛え、医師になるイメージをつかみます。患者さんと向き合うことで、臨床現場でのコミュニケーションの方法も学びます。

医師になるための臨床推論力を磨く

第６年次

医師 国家試験

兵庫医療大学 薬学部 看護学部 リハビリテーション学部

／HYOGO UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES／

第１年次

医療への理解を深め多職種連携の基礎を身につける

授業名

早期臨床体験実習

薬 看 リ

第1年次前期に、3学部合同で兵庫医科大学病院の見学実習を行い、求められる役割や他職種の業務について理解を深めます。さらに、兵庫医科大学の学生と合同学習で多職種連携を体験し、幅広い視野とコミュニケーション力を身につけます。

授業名

アカデミックリテラシー

薬 看 リ

学びの基礎として、ノートの取り方や情報機器による伝達、効果的な表現方法などの「スタディスキル」を身につけます。その他にも、マナーや論理的思考など、医療人として必要となる土台を築きます。

第２年次

各医療専門職の役割や価値観の違いを理解し問題解決力を養う

授業名

チーム医療概論

薬 看 リ

少人数のグループで課題に対する問題解決を図っていく「TBL学習」を使い、複数のメディカルスタッフが連携し治療やケアにあたる多職種連携の重要性や意義を学びます。

第３年次

相互理解プログラムで互いの専門領域を学び合い、理解を深める

授業名

オムニバス講義

看 リ 薬学概論
薬 リ 看護論
薬 看 総合リハビリテーション論

各学部の教員が他学部の学生に講義を行います。自身の専門領域以外を学ぶことでそれぞれの専門性について相互理解を深めていきます。

第４年次

より専門性を高めながら本格的な多職種連携を学ぶ

授業名

チーム医療論演習

薬 看 リ

兵庫医科大学 医学部を含めた少人数グループで、医師や医療専門職者との相互関係を具体的な症例を対象とした討議から学びます。

看護学部・リハビリテーション学部 **臨床実習** ≫≫

看護師・助産師・保健師・理学療法士・作業療法士 国家試験

第５年次

実務学習で実践力を養いコミュニケーション力を身につける

授業名

新・病院実務実習

薬

臨床現場で即対応できる薬剤師になることができるように、臨床現場での貴重な経験や知識の習得のみならず、医療人としての態度、マナーについても考え、行動できるようになることをめざします。

第６年次

基本的な知識を復習し薬剤師になるために専門性を高める

授業名

総合演習Ⅰ

薬

「十分なコミュニケーション能力を有し、患者さんの病態のみならず心理的・社会的背景を理解したうえで薬物治療を実践することができる」ことなどを目的に、演習問題に取り組みます。

薬学部 **臨床実習** ≫≫

薬剤師 国家試験

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE

課外活動でもプラス！

Extracurricular activities

大会運営で学んだ「信頼関係」を築くことの大切さ

兵庫医科大学
医学部医学科 第 4 年次生
篠原 有紀子

課外活動名
アーチェリー部

アーチェリー部は全国的にも数少ない部活なので、大会では全国の医学部生と交流することができ、大会を通して全国に知り合いがたくさんできました。特に大きな経験は、西日本医科学生アーチェリー競技大会で主幹を務めたことです。運営準備で一番困ったのが、初めて大会に出る2年次生に大会の進行を説明することでした。「経験したことがないこと」を人に説明することの難しさに気がつきました。

さらに、アーチェリー部は人数が多いため、全員に同じように伝えても、一人ひとりの解釈にはどうしても差が出てしまいます。「質問はある?」と聞いてもなかなか出ないことも多いので、不安そうな子には確認したり、大きな仕事を任せる時には「メモ取らなくても大丈夫?」と声を掛けたりしました。

大会当日は、準備不足な点も多くトラブルも発生しましたが、他大学の同級生たちが積極的に手伝ってくれたおかげでなんとか大会を終わらせることができました。人と交わり、信頼を築くことで困った時に声をかけてくれたり、問題が起こればすぐに話してくれたりするので、最悪の事態になる前に対処できるとわかりました。起こってしまった問題を早期に対処する方法として、普段からオープンな姿勢で多方面と関係作りをしておく重要さは医療現場にも通ずると思います。また、先を予測し、あらゆる対処法を事前に考えておくことの大切さも実感しました。「臨床現場ではいつでも危険を予測し、あらかじめ解決方法を考えておく」というこの経験を将来活かしていきたいと思います。

西日本医科学生アーチェリー競技大会で、真剣な眼差しで的を射る篠原さん

大会中は部員たちとのコミュニケーションも欠かさない

週2回、大学近くのアーチェリー場で活動。活動成果を発揮する場は年に3回。今年の夏に行われた全日本医科学生アーチェリー大会では男女共に多くの部員が入賞した。

ボランティアで「人を笑顔にする」きっかけをつくる

兵庫医科大学
医学部医学科 第 3 年次生
髙安 光

課外活動名
ボランティア部
～ with you～

図書ボランティアを中心に、「小児夏祭り」で入院中の子どもたちが楽しいひとときを過ごすための手伝いや、小・中学生の夏休みの宿題サポート、地元「武庫川ランプフェスティバル」でのステージ司会、輪投げなどのゲーム提供を行い、幅広く地域の方々と関わっています。

特に図書ボランティアは、普段、接することのない入院患者さんとお話をする貴重な機会です。「この時間を楽しみにしてるねん」と言っていただいた時は、読書が入院生活をいかに豊かにしてくれるものであるかを感じると同時に、私たちの活動がみなさんの役に立っていると実感することができました。退院された患者さんから感謝の手紙をいただいたこともあり、私たちの活動を喜んでもらえたのだとうれしく、また誇らしくもありました。

私自身も、部活を通して入学当時と比べて積極的になったように感じます。ボランティア部の部員は75名と大所帯ですが、部員同士の距離が近く、学年を超えての交流もあり、アットホームな雰囲気です。気の合う仲間と色々な活動に取り組みたいと思えるような環境でした。

これからも、先輩方が築いてくださったこの部活を引き継いでいけるように頑張るのはもちろん、ボランティア部として活動できる場所はまだまだあると思うので、新しい分野にも活動範囲を広げていき、さまざまな方と関わっていくなかで、コミュニケーション力を身につけていきたいです。

小児科病棟で実施した図書ボランティア

ボランティア部では学年を超えて交流も盛ん

週に2回、病棟を訪問し本の貸し出しを行う図書ボランティアとして活動。また、例年入院中の子どもたち向けに「小児夏祭り」を実施し、輪投げや魚釣り、ストラックアウトなどの遊びを提供。

HYOGO UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

それぞれのコミュニケーション力 SKILL

尊敬する先輩の背中や仲間との活動から学んだこと

兵庫医療大学
薬学部医療薬学科 第 3 年次生
橋本 優里菜

課外活動名
中医薬ゼミ
写真サークル「PhotoBug」
手話サークル「かめさん」

私は中医薬ゼミ、写真サークル「PhotoBug」、手話サークル「かめさん」に所属しています。

中医薬ゼミでは、中医学や漢方医学の基本的な知識について学んだり、漢方薬に使われる生薬であるトウキの薬用部位ではない葉を使用した料理をゼミ生みんなで意見を出し合いながら考えました。昨年も同じゼミに所属していたのですが、先輩たちには尊敬するところがいくつもありました。例えば、発表がとてもわかりやすかったり、知識量がとても多かったり、という部分です。自分もいつかそうなりたいと感じました。

写真サークルでは、サークルのメンバーでさまざまな場所を訪れ、撮影会や品評会を行なっています。また、手話サークルでは、手話を楽しみながら習得しようとゲーム形式で練習に励んでいます。仲間たちと日々練習する中で、手話で簡単な会話ができるようになりました。

「知らない人と話をする」「人前で頑張って喋る」というようなコミュニケーションスキルは高校の部活時代でも培われたと思いますが、加えて大学では、期限に間に合うように活動を進めなければならないので、計画を立てて実行できるようになった部分が成長したかなと思います。はじめは見通しが甘く先生からお叱りを受けたこともありました。行き当たりばったりで行動していると周りの人に迷惑をかけてしまうことを学習したので、自分発信のことはできるだけ余裕を持って行えるようにしようと思うようになりました。

写真を撮影する橋本さん

橋本さんが撮影した写真

中医薬ゼミでは、授業の内容に加えてさらに深く中医学や漢方について学ぶ。写真サークルでは、サークル員でさまざまな場所を訪れ、撮影会や品評会を行なっている。また、手話サークルでは、手話を楽しみながら習得しようとゲーム形式で練習に励む。

先輩、後輩との連携で「自分の役割」を意識

兵庫医療大学
薬学部医療薬学科 第 4 年次生
庄司 忠仁

課外活動名
兵庫医療大学
東洋医薬 活動部門

課外活動では、丹波地方の薬用作物や農産物の新たな活用法を発見することで丹波地方の活性化を目指した地域貢献活動を行っています。

トウキを使用した商品を販売するということで、先輩方や後輩とともに活動しますが、「次に自分が何をすればいいのか、自分の行為で周りの負担をどのように軽減できるのか」を考えられるようになりました。

活動の中では、学会で他校の学生や諸先生方の目の前で、今までの先輩方や自分の携わってきたことについて発表できたことが一番印象に残っています。こういった貴重な経験をさせていただいたことで、人前で発表を行う授業の時には「あの学会で話す10分に比べたら…」と思うようになり、比較的緊張しなくなりました。

言葉遣いは、話す相手によって自然と変えられているかなと思います。それも、この活動をとおして、さまざまな人たちと接する中で自然と身についてきたことだと思います。それでもまだまだ不十分な部分もあるので、これからもいろいろな人と接して、成長していきたいです。

今後は、今まで経験してきたことに加え、これから知っていくことや経験することを自身の糧とし、今まで以上に自分にできることを増やして行けたらなと思います。

トウキ葉の栽培・収穫体験

東洋医薬活動について学会で報告する庄司さん（右）

活動の一環として漢方里まつりへの参加、トウキ葉の栽培体験や収穫、トウキ葉を使用したレシピの考案、丹波市山南町の生薬文化の紹介も行う。その他にも、この活動と関連して東洋医学学会へも参加。

兵医広報

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
vol.248 2019 AUTUMN

CONTENTS

01 特集
兵医で身につくコミュニケーション力

08 NEWS & TOPICS
・保護者会から学生に氏名入りのゴニオメーターを贈呈
・歩行の負荷が軟骨損傷術後の軟骨再生に影響があることを証明
・女性医師のこれまでのキャリアをつづった「ロールモデル集」を発行
・統合失調症患者さんの中に「グルテン」の摂取が治療の妨げになる一群が存在する可能性が明らかに
・高校生を対象に「薬剤師の仕事」と「薬学部の学び」を体験するイベントを開催
・「待ち時間短縮」と「働き方改革」を同時に実現する「AI(人工知能)問診サービス」の運用を開始
・訪問看護ステーション「デカンショ」が厚労省から丹波地域初の認定
・大学・病院などのトップ自らが報道関係者に自部門をPR
・「THE世界大学ランキング2020」に兵庫医科大学がランクイン
・2019年度秋季学位授与式を挙行
・「兵庫医科大学 オープンキャンパス」を開催
・「兵庫医療大学 夏のオープンキャンパス」を開催
・「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ2019」を主催
・「2019年度入学時調査」の結果を公表
・「痛みのわかる」医療職を育成
・「西日本医科学生総合体育大会」などにおいて各部活動が力を発揮！
・研究医養成コースの学生がコンソーシアム合宿に参加
・兵庫医科大学病院が「がんゲノム医療拠点病院」に指定
・患者さんによりわかりやすく診療科名を変更
・小麦に含まれるグルテンへの感受性を調べ治療につなげる「専門外来」を設置

16 チームの力
排尿ケアチーム

知ってる？兵庫医療大学
“コミュニケーションマーク”に込められた思い

17 卒業生INTERVIEW
プロアスリートをサポートした経験をスポーツを頑張る子どもたちへ
兵庫県立加古川医療センター リハビリテーション科
部長　柳田 博美さん
(兵庫医科大学1986年卒)

19 HYO-i LAB -研究紹介-
認知機能と呼吸の関係を解き明かすことで身体に起こるストレス関連疾患の謎に迫る
兵庫医科大学 生理学生体機能部門
助教　中村 望

法人からのお知らせ

21 2019年度科学研究費助成事業交付内定一覧／研究助成金等の交付状況

23 人事情報／表彰・受賞など

24 主な行事予定(11月～1月)

25 募金状況

NEWS & TOPICS

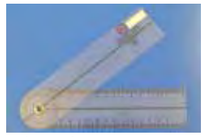
ニュース & トピックス

医療大 お知らせ

保護者会から学生に氏名入りのゴニオメーターを贈呈

2019年春、兵庫医療大学リハビリテーション学部保護者会よりリハビリテーション学部第2年次生に氏名入りゴニオメーター(関節角度の測定器具)が贈呈されました。以下は学生からのお礼文です。

「この度はありがとうございました。自分達の名前が入っており、とても嬉しく、モチベーションにも繋がりました。大切に使わせていただきます。これからも立派な医療人になれるよう日々精進していきますので、応援のほどよろしくお願いいたします」


氏名入りゴニオメーター

作業療法学科

理学療法学科

医科大 研究・発表

歩行の負荷が軟骨損傷術後の軟骨再生に影響があることを証明

7月15日、整形外科学の井石智也助教が執筆した論文が、整形外科領域で最もインパクト・ファクターが高いと言われている国際科学雑誌「The American Journal of Sports Medicine」誌に掲載されました。

間欠的圧縮力学負荷(歩行)が局所軟骨損傷に対するマイクロフラクチャー術後の再生軟骨に影響があること証明した研究です。

【論題】
Dynamic Compressive Loading Improves Cartilage Repair in an In Vitro Model of Microfracture: Comparison of 2 Mechanical Loading Regimens on Simulated Microfracture Based on Fibrin Gel Scaffolds Encapsulating Connective Tissue Progenitor Cells

▶詳細は医科大WEBへ

学校法人 お知らせ

女性医師のこれまでのキャリアをつづった「ロールモデル集」を発行
～未来の女性医師に想いをこめて～

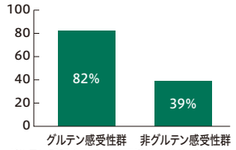
2019年7月、学校法人兵庫医科大学 女性医師支援プロジェクトが、ロールモデル集「自分らしく働こう～医師として働きつづけるために」を発行しました。これは、社会的な医師不足や医師の働き方改革が取りざたされるなど変化の激しい時代に、医学部生や研修医が「自らの生き方」「働き方」について考え、豊かなキャリアを継続できる“きっかけ”にしてほしいという想いから作成されたものです。実際に、兵庫医科大学病院で勤務している女性医師の働き方が掲載されています。

女性医師の想いがこもったロールモデル集

医科大 研究・発表

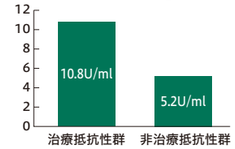
統合失調症患者さんの中に「グルテン」の摂取が治療の妨げになる一群が存在する可能性が明らかに

①治療抵抗性とグルテン感受性



グルテン感受性群では治療抵抗性患者が多い。

②治療抵抗性とAGA-IgG抗体価



治療抵抗性群では非治療抵抗性群より、AGA-IgG抗体価が高い。

▶詳細は医科大WEBへ

兵庫大学 精神科神経科学講座 大学院生 本山 美久仁医師、山田 恒講師らの研究グループは、統合失調症患者さんの一部に、「グルテン感受性※」が治療の妨げに関連している可能性のある一群が存在することを明らかにしました。なお、本研究は日本時間7月23日に精神病理の医学雑誌「Comprehensive Psychiatry」にオンライン掲載されました。

※小麦に含まれる「グルテン」の摂取により腹痛、下痢、頭痛、発疹、不安、抑うつなどのさまざまな身体・精神症状を特徴とする症候群

医科大 7/19

プレクリニカル教育の一環で、4年次生対象に医療者役と臨場感あふれる特殊メイクを施した傷病者役に分かれ、治療や搬送の優先順位を判定するトリアージ実習を実施しました。

大学病院 7/24、31、8/8

「第18・19・20回 阪神沿線健康講座」を大阪梅田・西宮・尼崎で開催しました。それぞれ「認知症」「口腔」「胃がん」をテーマにした講演を行い、113名、89名、73名の参加がありました。

医療大 大学病院 イベント

高校生を対象に「薬剤師の仕事」と「薬学部の学び」を体験するイベントを開催

7月20日に兵庫医療大学 薬学部と兵庫医科大学病院 薬剤部との合同イベント「薬剤師への道2019」を開催し、49名の高校生とその保護者の方々に参加いただきました。

本イベントは、「大学病院で職業について知り、大学で学びを体験する」をテーマに、薬学部への進学に興味を持つ高校生を対象として毎年開催しています。同一法人に薬学部と大学病院を持つ学校法人 兵庫医科大学の魅力を活かして、午前は兵庫医科大学病院にて、現役薬剤師（兵庫医療大学卒業生含む）による仕事紹介や薬剤部見学を行いました。午後からは兵庫医療大学へバスで移動し、薬学部での学び紹介や実習体験などを行いました。

薬剤師による仕事紹介

在学生が丁寧に指導

実習体験に高校生も興味津々

ささやま お知らせ

訪問看護ステーション「デカンショ」が厚労省から丹波地域初の認定

兵庫医科大学 ささやま居宅サービスセンター内で運営している訪問看護ステーション「デカンショ」が、2019年8月1日付けで、厚生労働省から丹波地域で初めてとなる「機能強化型訪問看護ステーション（機能強化型訪問看護管理療養費3）」の認定を受けました。

機能強化型訪問看護管理療養費3は、2018年度の診療報酬改定により新設となった項目で、同療養費1や2とは異なり、規模の大きさを評価するものではなく、「地域における訪問看護の提供体制を広げて確保していく観点から、訪問看護の理解と訪問看護に関る人材育成について一定の役割を担うステーションを評価したもの」と言えます。

学校法人 イベント

大学・病院などのトップ自らが報道関係者に自部門をPR

2019年8月5日、新聞社やテレビ局などの報道関係者を西宮キャンパスに招き、「学校法人 兵庫医科大学 2019年度 記者懇談会」を開催しました。

プレゼンテーション後には記者の皆さんからの質問も

当日は、兵庫医科大学、兵庫医療大学、兵庫医科大学病院、ささやま医療センター、健康医学クリニックのトップが、それぞれ現在の取り組みなどについて自らプレゼンテーションを実施。また、終了後にはレストラン「ロイヤル」で意見交換会を行い、市民の声を代弁する記者からの助言に耳を傾けるとともに、互いに交流を深めました。

ささやま お知らせ

「待ち時間短縮」と「働き方改革」を同時に実現する「AI（人工知能）問診サービス」の運用を開始

ささやま医療センターは初診患者さんの診察に「AI（人工知能）問診サービス」※を導入し、2019年7月25日より本格運用を開始しました。本サービスは、患者さんが「タブレット端末」を利用して自らの症状に合った複数の質問に回答。その内容をもとに、AIが「疑いのある病名」などを推測し、病名リストを電子カルテ上に表示するものです。

従来のように、医師が患者さんの症状などを一から聴き取り、カルテに記載・入力する手間がなくなるため、医師や病院職員の業務負担やそれに伴うストレスが軽減。医師がより診療に専念できるようになることで、診療の質の向上につながることも期待できます。また、患者さんの主訴や症状、年齢・性別などの要素をもとに、AIが最適な質問を動的に生成・聴取するため、より広くて深い問診が可能になります。

今後は、本サービスを研修医などへの教育にも利用することで、優秀な総合医の育成に役立てていきたいと考えています。

※「医療機関向けAI問診 Ubie（ユビー）」（Ubie株式会社）を導入。月曜日から金曜日までの全診療日、当面は「総合診療科」のみで運用

患者さんの回答内容に基づきAIが病名を判断

医科大 お知らせ

「THE世界大学ランキング2020」に兵庫医科大学がランクイン

2019年9月12日、イギリス教育専門誌・Times Higher Education（THE）による「世界大学ランキング2020」が公表され、兵庫医科大学が世界総合ランキングにおいて『801-1000』位にランクインしました。ランキングで発表された92カ国1,300校以上の中には日本の大学が110校ランクインしており、兵庫医科大学はその中で第26位という結果となりました。

■「THE世界大学ランキング2019」にランクインした日本の大学

国内順位	世界ランキング順位	大学名
1	36	東京大学
2	65	京都大学
3	251-300	東北大学、他
・	・	・
・	・	・
26	801-1000	兵庫医科大学、他

医療大 イベント

2019年度 秋季学位授与式を挙行

2019年9月14日、兵庫医療大学オクタホールにて「2019年度 兵庫医療大学秋季学位授与式」を執り行い、薬学部医療薬学科の7名が卒業の日を迎えました。多くの教員が見守るなか、これから社会人としてそれぞれに活躍していく卒業生に、藤岡学長より式辞が述べられました。その後、一人ひとりに学位記が手渡され、新たな門出を祝いました。

藤岡学長より学位記を授与

大学病院 7/23、8/6

兵庫医科大学病院にて「ふれあい看護体験」イベントを開催。2日間で29名の高校生が参加し、看護することや人の命について、理解と関心を深める機会となりました。

学校法人 8/22

デロイトトーマツ税理士法人 飯田 幸子先生を講師に迎え、教職員を対象に「消費税率の引き上げと軽減税率制度・経過措置」をテーマにしたセミナーを開催しました。

ささやま 8/24

「令和元年度 ささやま老人保健施設納涼祭」を開催。そうめん流しや射的、ヤカーリングなどの催しで、ご利用者の方々に楽しんでいただきました。

大学病院 8/26～30、9/9～13

兵庫医科大学病院にて院内感染の予防を目的に、今年も「クリーンハンドキャンペーン」を実施。石鹸と流水手洗いをテーマに洗い残しチェックを行い、手指衛生の重要性を再認識しました。

医科大 イベント

「兵庫医科大学 オープンキャンパス」を開催
～きれいな校舎の中でおもてなし～

2019年8月8日、9日の2日間「オープンキャンパス」を実施しました。教育研究棟での開催は今年で2回目となり、両日合わせて高校生・受験生など合計623名の方にご参加いただきました。8日は学長挨拶、大学・入試概要説明、坂口主任教授による模擬授業「心臓手術の最前線」を、9日は学長挨拶、大学・入試概要説明、小山主任教授による模擬授業「先端テクノロジーと脳科学がいざなう予防医学最前線」を実施し、どのプログラムも盛況でした。

また、キャンパス見学では、新しい校舎を実際に見ていただき「きれいな校舎で、設備も整っていて感動しました」といった感想をいただきました。

その他、解剖実習室見学ツアー、シミュレータ体験、学食体験、在学生交流コーナー、個別相談も好評で兵庫医科大学についての理解を深めていただける機会となりました。

一次救命処置の体験

大学の授業を模擬体験

医療大 イベント

「兵庫医療大学 夏のオープンキャンパス」を開催
～医療専門職者を1日体験～

8月10日、12日、24日、25日に「夏のオープンキャンパス2019」を開催しました。天候にも恵まれ、4日間で高校生・受験生1,875名、保護者など同伴者1,283名の方々にご参加いただきました。

当日は、各学部学科のガイダンスや体験実習のほか、推薦入試受験を検討する受験生向けの「入試対策講座（化学・小論文・英語）」や、在学生スタッフが学生生活の本音を語る「学生スタッフ特別企画」などを行いました。

また、今年度は大学の魅力を伝えるための在学生組織「兵庫医療大学ブランディングサポーターズ」が来場者対応の中心を担い、当日に至る準備段階でも前年度までの反省点を教職員と議論するなど、在学生が積極的に企画に関わるイベントとなりました。

積極的に関わった在学生スタッフ

天候にも恵まれたオープンキャンパス当日

人気の学部学科体験コーナー

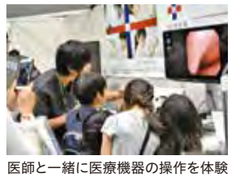
学校法人 イベント

～医療や健康について楽しく学べる体験型イベント～
「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ2019」を主催

学校法人兵庫医科大学は、2019年8月23日から25日まで、最新の医療や健康づくりについて楽しく学ぶことで健康意識を高めてもらうことを目的とした体験型イベント「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ2019～遊んで学んで広がる健康の絆～」をハービスHALLで開催しました（共催：国立大学法人神戸大学、阪神電気鉄道株式会社）。

4回目の開催となった今年も、兵庫医科大学病院や兵庫医療大学がブースやセミナーなどを通じてさまざまな催しを実施。結果、今年も計1万人以上もの人々が来場されるなど大盛況のうちに幕を閉じました。

子どもたち同士で治療体験


医師と一緒に医療機器の操作を体験

■学校法人兵庫医科大学　関連プログラム

タイトル	内容	担当
手と足のせかい「整形外科の治療を体験しよう！」	関節鏡の手術体験、ギプス制作体験、スポーツドクターの紹介など	兵庫医科大学病院 整形外科
耳と鼻のせかい「耳や鼻の中をのぞいてみよう！」	ファイバースコープを使った治療体験、音叉の検査体験、補聴器の展示など	兵庫医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
カラダとアタマのチェックラリー	反射神経、ステップ能力などを測る運動チェック、認知チェックなど	兵庫医療大学 リハビリテーション学部
セミナー「なんで音って聞こえるの？～“耳”の世界へようこそ！～」	音が聞こえるしくみ、最新の人工内耳、当事者の体験談など	兵庫医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 矢崎 牧 言語聴覚士
セミナー「知って納得！糖尿病」	糖尿病の概要、予防法など	兵庫医科大学病院 糖尿病・内分泌・代謝内科 小西 康輔 講師
セミナー「虫はすごいぞ！こわくない！！～虫と皮膚病のおはなし～」	昆虫の種類や生態、人への被害、対処法など	兵庫医科大学病院 皮膚科 夏秋 優 准教授
セミナー「～プロ選手を支える！～スポーツドクターのお仕事」	「スポーツドクター」の仕事紹介、バスケ選手とケガを防ぐストレッチ体験	兵庫医科大学病院 整形外科
セミナー「～外科医が教える～ どうなってるの？からだの中身」	絵を描いたりパーツを貼ったりして、からだの中がどうなっているかを学ぶプログラム	兵庫医科大学病院 上部消化管外科 篠原 尚 主任教授
セミナー「“AEDってなぁに？”～救命救急を体験しよう～」	子どもたちを対象にしたAEDの使用体験	兵庫医療大学

医科大 お知らせ

「2019年度入学時調査」の結果を公表
～数値でわかる新入生のホンネ～

2019年4月に第1年次生を対象に実施した入学時調査の結果を公表しました。これは、学生の学修状況や入学時の気持ち・意識について把握することを目的としたものです。

「兵庫医科大学への入学に満足している」新入生は92%、将来「臨床医を目指す」は87%、「早く医学の知識を身に付けたい」「病院での実習が楽しみ」は90%以上いました。一方、「大学の授業についていけるか、留年しないか」と考える新入生は70%でした。また、得意な点では「異なる文化を柔軟に受け入れることができる」「物事に粘り強く取り組める」という回答が80%を占める一方、「英語能力」「プレゼンテーション力」は70%の新入生が苦手意識を持っていることが分かりました。

各種教育関連の調査結果は、教育プログラムの改善や学修支援に活用していきます。

▶詳細は医科大WEBへ

Q 兵庫医科大学に満足している？ 92%

Q 将来は臨床医を目指す？ 87%

Q 兵庫医科大学の志望理由は？
- 医師国家試験の合格率が高い 49%
- 施設・設備の良さ 48%
- 自宅から通学できる 44%

Q 医師を志望した理由は？
- 人を救う仕事に興味がある 61%
- 身近な人が医療業界で働くのを見て 54%
- 病気やけが、死などを身近に経験して 26%

Q 今後期待していることは？
- 早く医学の知識を身に付けたい 96%
- 部活動に参加したい 93%
- 病院での実習が楽しみ 92%

医療大 8/28
兵庫医療大学にて、本格的な就活を目前に控えたリハビリテーション学部4年次生を対象に、履歴書の書き方や面接、就活マナーなどの講座を行いました。

医療大 8/31
リハビリテーション学部理学療法学科の学生を対象に「キャリア探究セミナー」を実施。57名の学生が参加し、卒業生3名による講演および質疑応答が行われました。

大学病院 9/7
宝塚にて「第5回市民健康フォーラム」を開催。がん死亡率の上位を占める胃腸のがんについて講演し、阪神間各市から235名の方々にご参加いただきました。

大学病院 9/9
兵庫医科大学病院 呼吸ケアチームが教職員向けに「オーラルマネジメント」セミナーを開催。多職種が参加し口腔ケアの重要性について再認識しました。

医科大 医療大 教育

「痛みのわかる」医療職を育成
～医科大・医療大合同プログラムも～

これまで、日本の医療職教育の現場では「痛み」に関する集学的な教育が不十分でしたが、慢性疼痛患者の有病率が20％を超える現代社会において、患者さんの「痛み」を理解し、正しく治療できる医療職の育成は年々求められています。

そこで、兵庫医科大学（医学部）および兵庫医療大学（薬学部・看護学部・リハビリテーション学部）では、「痛み」について学生に理解を深めてもらうため、2019年度に教育カリキュラムを大幅に改定しました（右表）。

今後は、兵庫医科大学病院で勤務する現役の医療職などにも「痛み」に関する教育を行う予定です。

2019年度 改定カリキュラム

科目名・改訂内容	実施日	対象校
「チーム医療演習」 pick up! 医科大3年次と医療大4年次による合同演習。今年度は「痛み」をテーマとした特別講義やグループ討議などを行った。	8/29～9/6	医科大・医療大
「早期臨床体験実習」 pick up! 医科大1年次と医療大学1年次による合同演習。今年度はグループ討議で「痛み」について深く検討した。	9/9～9/11	医科大・医療大
「基礎医学統合TBL」 2年次生が神経科学、特に痛みのメカニズムや臨床との関連について、グループ討議で学習した。	8/27、8/29	医科大
「臨床疼痛学」 4年次の新設講義。痛みの分類を理解し、慢性的な痛みがある病態と治療について学んだ。	6/14～7/24	医科大
「臨床実習」 新設した「痛み教育センター」のサポートによって、4～5年次生が兵庫医科大学病院で行う臨床実習のなかで、痛み・緩和ケアについて重点的に学ぶ。	通年	医科大

pick up! 「チーム医療演習」

緊張した面持ちで演習スタート

野口医科大学長による疼痛特別講義

アイスブレイクで打ち解ける学生

各専門分野を活かしたディスカッション

グループの討議結果をプレゼン

痛みをテーマとする模擬カンファレンス

個人優秀賞の授与

優秀賞を受賞した54グループ

pick up! 「早期臨床体験実習」

グループで症例シナリオを検討

緊張しながら成果を発表

優秀賞を受賞したGroup 8

医科大 イベント

「西日本医科学生総合体育大会」などにおいて各部活動が力を発揮！

8月に開催された「第71回西日本医科学生総合体育大会」において、兵庫医科大学の学生たちが熱戦を繰り広げました。今年の大会は関西にある医科大学が主管のもと開催されたため、例年よりも多くの応援が駆けつけ、軟式テニス部、陸上競技部、ヨット部など多くの部活動が好成績を収めました。

また、軟式テニス部は「第53回全日本医科学生体育大会王座決定戦」に進み、全国3位という素晴らしい結果を勝ち取りました。

その他にも、アーチェリー部は、台風被害などの影響により練習場が使用できず、万全のコンディションではない状況にありましたが、「第34回全日本医科学生アーチェリー競技大会」では昨年に引き続き好成績を収めました。

ヨット部

軟式テニス部

陸上競技部

■「2019年度 第71回 西日本医科学生総合体育大会」主な結果

クラブ名	種目・部門等名称	順位	学年	氏 名
競技スキー部	女子団体	2位		
	女子 大回転	1位	5年	大城 葵
	女子 新人戦	3位	2年	平石 江理奈
	女子 スーパーG	1位	5年	大城 葵
	女子 回転	2位	5年	大城 葵
陸上競技部	男子1500m決勝	8位	2年	柿原 直季
	女子400m決勝	6位	6年	新宅 由佳
	男子円盤投げ決勝	6位	6年	清水 健太郎
	女子800m決勝	2位	6年	新宅 由佳
	女子4×400m タイムレース決勝	1位	3年 6年 5年 3年	垂水 千紘 新宅 由佳 守本 佳暖 岸根 雪葉
ヨット部	本レース 470級	3位	4年 3年 2年	平野 裕樹 藤井 紫乃 古志 真祐子
	本レース 総合	3位	4年 4年 4年 3年 2年 2年	平野 裕樹 谷岡 由朗 有川 裕貴 藤井 紫乃 松本 拓也 古志 真祐子
軟式テニス部	女子団体戦	8位	6年 6年 5年 5年 4年 4年	甲田 素子 中野 多絵 宗田 桃子 佐藤 実歩 村井 侑奈 小畑 有未

■「2019年度 第53回 全日本医科学生体育大会王座決定戦」主な結果

クラブ名	種目・部門等名称	順位	学年	氏 名
軟式テニス部	女子団体戦	3位	6年 6年 5年 5年 4年 4年	甲田 素子 中野 多絵 宗田 桃子 佐藤 実歩 村井 侑奈 小畑 有未

■「2019年度 第12回西日本医科学生アーチェリー競技大会」主な結果

クラブ名	種目・部門等名称	順位	学年	氏 名
アーチェリー部	男子総合個人	3位	4年	岸 和希
	男子30m 距離賞		3年	上仁 大地
	男子30m 30金賞		3年	上仁 大地
	女子総合個人	1位	4年	篠原 有紀子
	女子総合個人	2位	6年	村上 美沙
	女子50m 距離賞		4年	篠原 有紀子
	女子30m 距離賞		4年	篠原 有紀子
	女子フィールド 距離賞		4年	篠原 有紀子
	男女混合団体	1位	4年 3年 4年	岸 和希 上仁 大地 篠原 有紀子

■「2019年度 第34回全日本医科学生アーチェリー競技大会」主な結果

クラブ名	種目・部門等名称	順位	学年	氏 名
アーチェリー部	女子ハーフ	1位	2年	渡邊 真衣
	女子ハーフ	2位	2年	八木 咲良
	男子グリーン	2位	1年	久賀 崇意
	男子団体	2位	3年 2年 4年	上仁 大地 宮内 瑛介 岸 和希

▶詳細は医科大WEBへ

大学病院 ささやま 9/9～18

兵庫医科大学病院にて、篠山ボランティアグループによる「ちぎり絵展」を開催。作品をご覧になった患者さんたちは、深みのある色彩に魅了されていました。

大学病院 9/12

小児科病棟にて、絵本の読み聞かせや手遊びを行う「おはなし会」を実施。参加した子どもたちは、興味津々に話を聞いて楽しい時間を過ごしていました。

医科大 9/19

蓮沼直子特別招聘教授による「男女共同参画特別講義」を実施。参加した学生たちにとって、将来の医師としての働き方について考える良い機会となりました。

学校法人 9/21

教職員を対象に育児応援セミナー「みんなで話そう！こどものコミュニケーション」を開催。兵庫医科大学病院の小児看護専門看護師によるセミナーとフリートークで交流を深めました。

医科大 イベント

研究医養成コースの学生がコンソーシアム合宿に参加

他大学の学生とグループワーク

2019年9月14日、15日の2日間、ホテルフクラシア大阪ベイにて、関西5医科大学※研究医養成コースコンソーシアム合宿が開催され、兵庫医科大学から研究医コースの学生5名と鈴木副学長、石戸主任教授（病原微生物学）が参加しました。1日目は学生によるポスター発表やグループワークが行われ、2日目は石戸主任教授による講演のほか、1日目のグループワーク発表を実施。参加した学生たちにとって今後の研究について具体的に考える有意義な合宿となりました。

※兵庫医科大学、関西医科大学、大阪医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学

大学病院 お知らせ

兵庫医科大学病院が「がんゲノム医療拠点病院」に指定

兵庫医科大学病院は、厚生労働省より2019年9月19日付けで「がんゲノム医療拠点病院」に指定されました。「がんゲノム医療拠点病院」は、がんゲノム医療を提供する機能を有する医療機関として「がんゲノム医療中核拠点病院（全国11カ所）」とともに、同医療の拠点となる病院であり、この度、全国で34施設、兵庫県内では兵庫医科大学病院を含め3施設が認定されました。

従来、がんゲノム医療中核拠点病院と連携して、遺伝子検査の実施や結果分析、治療方針の決定等をしていましたが、この度の指定により、単独でこれらの役割を担い、ゲノム医療に素早く対応できるようになります。

がんゲノム医療拠点病院の指定書

大学病院 お知らせ

患者さんにより わかりやすく診療科名を変更

2019年10月1日より、兵庫医科大学病院 循環器内科・冠疾患内科は、診療科名を「循環器内科」に、リウマチ・膠原病内科を「アレルギー・リウマチ内科」に変更しました。

今回の変更は、それぞれの診療科の専門領域を明確にすることで、患者さんに分かりやすくすることを目的としています。診療内容の変更はなく、これまでどおり診療を行っていきます。

変更前		変更後
循環器内科・冠疾患内科	→	循環器内科
リウマチ・膠原病内科	→	アレルギー・リウマチ内科

大学病院 お知らせ

小麦に含まれるグルテンへの感受性を調べ治療につなげる「専門外来」を設置

2019年10月5日より、兵庫医科大学病院 精神科神経科にて、「グルテン専門外来」の診療を開始しました。対象となるのは、小麦に含まれる「グルテン」に関連すると思われる身体症状や、精神症状を自覚もしくは、かかりつけ医より疑われると言われたことがある方です。グルテンへの感受性を調べ、専門的な治療へつなげることを目的として取り組んでいます。

グルテン専門外来での診察の様子

グルテン専門外来
【診療開始時期】2019年10月5日（土）～
【診　療　科】「精神科神経科」にて実施
【対　象　日】第1・第3土曜日の外来診療時間（8:30～11:00）
※完全予約制、事前連絡が必要

医療大 10/5

兵庫医療大学にて、「第13回保護者懇談会」を開催。400名以上の保護者にご参加いただき、大学現況などについて報告しました。

医科大 10/15

平成記念会館において、令和元年度兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭を挙行しました。ご遺族をはじめ、学生・教職員等が参列しました。

チームの力

法人内のチームの動きをご紹介します

排尿ケアチーム ～患者さんの自立生活に向けてチームでケア～

日常生活の中で、当たり前のように行われる生理現象の一つである「排尿」。私たちは膀胱に200～400mlの尿がたまると尿意を感じ、そして、自分の意思でトイレに行くまでしばらく我慢すること（蓄尿）と、準備が整い次第排泄すること（排尿）ができます。しかし近年、高齢化が進み、多くの方が排尿に関する何らかの悩みを抱えているといわれています。例えば、前立腺肥大症のように尿をうまく出すことができない「排出障害」や、過活動膀胱のように尿をうまく貯めることができない「蓄尿障害」などがあげられます。このような排尿障害の要因は複雑にからみ合っていることが多く、生活の質の低下につながりかねません。

そこで、兵庫医科大学病院では、そうした「排尿」に関して悩みを抱えている患者さんに対して多職種で連携しながらケアを行う「排尿ケアチーム」を2019年4月に発足させました。

「排尿ケアチーム」は、各病棟看護師と連携し、ケアが必要な入院患者さんを見つけ出します。そして、当該患者さんの残尿を測定したり排尿日誌などによる記録から評価したりするなかで、ケア内容を考えていくのです。こうした毎日の積み重ねによって患者さんの排尿の自立をサポートしていきます。

その他にも、院内スタッフを対象とした排尿トラブルのある患者さんのケアに関する研修会を定期的に開催するなど病院全体でケアできるように取り組んでいます。

～構成メンバー～
・医師（泌尿器科）　2名　・認定資格のある看護師　1名
・作業療法士　1名　・理学療法士　1名

カンファレンスで患者さんのケア方法を検討

知ってる？ 兵庫医療大学

兵庫医療大学の
“すごい”や“隠れた魅力”をご紹介します

“コミュニケーションマーク”に込められた思い

皆さんは、兵庫医療大学の“コミュニケーションマーク”をご存じですか？「ロゴマークは馴染みがあるけれど、コミュニケーションマークって何だろう」と首をかしげている人もいるのではないでしょうか。

コミュニケーションマークは、兵庫医療大学が次の10年を見据えて、地域社会や医療人を志す高校生を含めた学外の方に「兵庫医療大学のメッセージが届けられるように」と想いを込めて、新たに制作されたものです。「医療界をけん引するリーダーとなる」「医療界を率いるリーダーを育む」というメッセージが、重なる“L”のデザインに込められています。そして、兵庫医療大学のロゴカラーである“赤”と“青”が組み合わさって、力を合わせて取り組む「チーム医療」の精神も表現されているのです。

これらの想いを胸に、これからも兵庫医療大学は「人と地域の未来を紡ぐ」特色ある医療総合大学になるべく、歩み続けていきます。

LEADING HEALTH SCIENCES
コミュニケーションマーク

「人と地域の未来を紡ぐ」
学校法人 兵庫医科大学
兵庫医療大学
コミュニケーションマークの想いが込められたロゴマーク